第３学年　　社会科　学習指導細案

１　単元名
火事から町を守る

２　単元の目標
○消防署の働きについて，人々の生活との関係を踏まえて理解するとともに，調査活動，具体的な資料を通して，必要な情報を調べ，まとめる技能を身につけるようにする。【知識および技能】
○消防署など関係機関の相互の関連や人々の生活との関連，そこに従事する人々の働きについて考え，考えたことを表現する力を養う。【思考力，判断力，表現力等】
○消防署の働きについて，主体的に学習の問題を解決しようとする態度や，よりよい社会を考え学習したことを社会に生かそうとする態度を養うとともに，地域社会の一員としての自覚を養う。【学びに向かう力，人間性等】

３　単元（題材）の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・消防署の働きや，火災が起きたときの動き，身近な消防設備などについて，見学・調査したり，地図などの資料で調べたりして，必要な情報を集め，読み取り，消防署や地域の人々の諸活動を理解している。 ・調べたことを関係図にまとめ，火事が起きたときに消防署を中心として，関係機関や地域の人々と協力して火事の防止・予防に努めていることを理解している。	・消防署の働きや，火災が起きたときの動き，身近な消防設備などに着目して，問いを見いだし，関係機関や地域の人々の諸活動について考え，表現している。 ・分かったことを比較，分類したり，結びつけたりするなどして，消防署を中心とする様々な関係機関の連携や従事する人々の働きを考えたり，学習したことをもとに社会への関わり方を選択・判断したりして，適切に表現している。	・地域の人々の生命や財産を脅かす火災から，安全を守る働きについて，予想や学習計画を立てたり，見直したりして，主体的に学習問題を追究し，解決しようとしている。 ・学習したことをもとに，地域や自分自身の安全を守るために自分たちにできることを考えようとしている。

４　単元の指導の構想
（１）　単元について
本単元は，新学習指導要領の第３学年の内容（３）に準拠して設定した単元である。

> (3)　地域の安全を守る働きについて，学習の問題を追究・解決する活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。
> ア　次のような知識及び技能を身に付けること。
> （ア）　消防署や警察署などの関係機関は，地域の安全を守るために，相互に連携して緊急時に対処する体制をとっていることや，関係機関が地域の人々と協力して火災や事故などの防止に努めていることを理解すること。
> （イ）　見学・調査したり地図などの資料で調べたりして，まとめること。
>
> イ　次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。
> ア）　施設・設備などの配置，緊急時への備えや対応などに着目して，関係機関や地域の人々の諸活動を捉え，相互の関連や従事する人々の働きを考え，表現すること。

（２）　単元と児童
児童は，興味関心のあることに積極的に取り組み，自由に意見交換をしたり，話し合ったりしてお互いに考えを深めていくことができる。一方で，やらなければいけない事が出来なかったり，自分のやりたいことを優先してしまったりする児童も見受けられる。子どもたちが火事を身近に体験したことはなく，生活経験から考えても『火事』に対して自分事として考えることは少し難しい。そこで，本単元の導入では，昔の○小学校が燃えている

写真を提示したり，火事の映像を見せたりして，自分の行動一つが火事を起こしてしまうことにもつながっていることを確認し，①学校は大丈夫か②自分の家は大丈夫か③地域は大丈夫かという三つの視点から，火事をどのように防いでいけばいいのか，火事が起きた際の関係機関の動きを考えていく。

（３） 指導の構想

本単元では，児童にとって，なじみのない火災をより自分事として考えられるように，自分たちの①学校は火事が起きても大丈夫か。②自分の家で火事が起きても大丈夫か。③自分の住んでいる地域で火事が起きても大丈夫か。という３つの視点から学習を進めていく。

①学校は火事が起きても大丈夫かでは，校内の防火設備がどこにあるか調べ，避難経路図や校内の防災計画について調べていく。校内図に見つけた防火設備を加えていく活動をし，小学校が火事から守られていることを学習する。火事が起きたときの学校内での連絡のしくみを学習し，自分たちの学校は大丈夫だという気持ちをもつ。

②自分の家で火事が起きても大丈夫かでは，学校で調べた防火設備との違いを元に疑問を生む。学校のような立派な防火設備がない家で火事が起きたときのことを考えていく。まず火事が起きたときの１１９番の仕組みを学習し，火事が起きた際は様々な機関が連携して活動し，素早く消火に当たることを理解する。また，消防署の工夫や消防士の一日，リトルファイヤースクールを通して，消防士の方が火事から町を守っていることを学習し，自分の家で火事が起きても大丈夫だという気持ちをもつ。

③地域で火事が起きても大丈夫かでは，消防士と消防団との違いについて学習する。地域の安全を地域でも守るために，消防団があるということを理解するため，現消防団の方を招いたり，インタビューを行った動画を見せたりして，消防士だけでなく，自分たちでも火事を防ぐために何か出来るのではないかといった思いを持たせる。

学習の最後には，単元を通して，自分が気をつけたいことや火事を起こさないために心がけたいことなどを，学習した内容を使ってどんなことに気をつけたいかを発表する活動を取り入れる。

５　単元（題材）の指導計画（全１１時間）

時	学習のねらい（〇）と主な活動内容（・）	評　価			
		知	思	態	■評価規準
1	〇火災の写真や消火のイラストに着目し，火災に対しての関心をもつ。 ・昔の〇小学校が燃えている写真を提示し，今の〇小学校は大丈夫なのかを考える。 ・教科書 P94 のイラストを参考に，火事が起こったら誰が何をしているのかを確認する。	○		○	**■イラストに描かれている場面を読み取り，消防士や警察官などが協力して消火活動をしている事を捉えている。** **■学校で火事が発生したときや家で火事になったときのことを想像し，学習課題をつくり表現している。（発）（ノ）**
2 ・ 3	〇〇小学校の消防設備を確認し，どこに何があるのかをまとめ，役割や計画的な配置，消防計画が立てられていることを捉える。 ・火事が発生してから，何分までに消防が来るようになっているのか予想し，確認する。 ・学校が本当に大丈夫なのかを確かめるため，校内の消防設備を確認し，ロイロノートに示した構内図に消防設備を加えていく。 ・前時に行った消防設備の場所と役割を全体でまとめていく。 ・消防設備の他に，避難訓練を元に，消防計画が立てられていることについて，確認する。	○			**■学校の消防設備について，設置場所や役割を調べるとともに，学校は消防計画を作り火災に備えていることを理解している。（発）（ノ）**

4	○家や町で火事が起きたときのことを想定し，消防署は普段何をしているのか疑問を出す。 ・自分の家にはどんな消防設備があるかを探して写真を撮る。 ・子どもたちの家には学校のような多くの消防設備がないことを確認し，助けてくれる消防士が普段何をしているのか，消防士や消防署についての疑問を挙げる。		○	○	**■自分の家で火事が発生したときのことを想定し，自分の家の消防設備は何があるかを確認する。** **■消防士が普段何をしているのか，どんな工夫をしているのかを疑問として挙げる。（発）（ノ）**
5	○新潟市の消防署の数，消防車や消防服などに着目し，それらの設備や活動について捉える。 ・事前に消防署に質問を送っておき，その回答を元に子どもたちの疑問を解決していく。 ・消防車の設備や防火服についての資料を見て，それぞれの役割を調べる。	○			**■市内の消防署の分布図や，消防車や消防服などに着目し，それぞれの役割や工夫について調べる。（発）（ノ）**
6	○消防士の日常的な仕事に着目し，設備の点検や出動に備えた訓練などに取り組んでいることについて捉える。 ・先生の一日と消防士の一日を比べ，違いを挙げながら，消防士の仕事内容となぜ一日勤務になっているのかの理由を考え，話し合う。	○			**■消防士の日常的な仕事や，職員の勤務体制について理解している。（発）（ノ）**
7 本 時	○火災に対する，消防署や関係機関の働きに着目して，素早く確実に協力して火を消すための工夫がされていることを捉える。 ・火災の連絡はどこに行くのか，地図を使って考える。 ・既習事項をもとになぜ近くの消防署に連絡がいかないのか，を予想する。 ・意見交換をしながら，消防局についての資料があると課題が解決できるのではないかと見通しをもつ。 ・消防局の資料を読み取る活動を通して，消防指令管制センターの良さについて考える。 ・新潟シティチャンネル Call１１９で実際に通報があったときの流れを見る。		○		**■１１９番の通報の仕組みを捉え，緊急時における関係機関との連携や協力，迅速な消火について理解し，表現している。（発）（ノ）**
8 9	○実際の消防士に話を聞いたり，質問したりすることで，消防士の仕事や点検・訓練の様子などを，より深く理解する。			○	**■実際の消防士の方に質問をしたり，話を聞いたりすることで，職員の仕事や活動など必要な情報を集めている。（発）（ノ）**
1	○地域の消防設備に着目して，消防	○			**■地域の消防施設について，設置場所や**

0	士と消防団の違いについて，一般の人が地域を守るためにみんなで協力して活動していることを捉える。 ・消防団と消防士との違いについて考え，消防団の方に話を聞く。				**役割を調べるとともに，消防団などの地域の人は消防署と協力して火災に備えていることを理解している。（発）（ノ）**
1 1	○学習内容を振り返り，消防署の働きについて整理・分析し，まとめ，火事から自分やまちの安全を守るために，大切と考えることや行動に向けた意識をもてるようにする。		○	○	**■火事から町を守る働きについて，関係機関の連携を中心に図にまとめ，自分たちにも協力できることや，心がけることを選択・判断して表現している。（発）（ノ）**

６　本時の計画（７時間目／全１１時間）

（１）　本時のねらい

火災が起きたときの連絡の仕組みを調べる活動を通して，消防局に連絡が行く良さを考えることが出来る。

（２）　本時の構想

①　見通しをもたせる場面で目指す児童の姿

１１９番通報が近くの消防署ではなく消防局の消防指令管制センターにつながることについて，火事の消火の様子や消防士の仕事から予想し，消防局に連絡が行く良さが分かる資料が必要だと検討する姿。

②　見通しをもたせる場面における構想

手立て①　前時までに学習した資料の掲示と提示の仕方

本時の学習を進める際，なぜ１１９番が近くの消防署に行かないのかというズレを子どもたちに生じさせる。前時では○消防署の勤務形態や仕事内容を学習しているため，資料の掲示を行う。また，単元の始めに使用した消火のイラストも掲示し，各機関が協力している場面が分かるようにもしておく。

本時では，資料１を使い○小学校と消防局の距離が離れているところにも注目させてズレを生む。その際，子どもたちに馴染みのある○○と○○を地図上に加え，目移りしそうな出張所などを消した地図を作成した。

手立て②　既習事項に考えを向けさせる発問

なぜ消防局に連絡が行くのかという課題に向かうため，近くの消防署に連絡が行かないのかという部分からも予想を立て，追及に向かわせたい。そのため，「なぜ消防局に行くのか」だけでなく「なぜ近くの消防署に行かないのか」という発問を加える。

（３）本時の展開

学習活動	教師の働き掛けと予想される児童生徒の反応	■評価・○留意点
導入 １．消防署の配置図を見て，もし○小学校で火事が起こったり他の場所で火事が起きたりしたときに，どこへ連絡が行くのかを考える。（６分）	T1　火事が起こったら何番に連絡するのかはずっと確認してきているね。どこだったっけ。 C1　１１９です。 T2　そうだね。じゃあ，この地図を見て，もし○小学校で火事が起きたら，１１９番の通報はどこに連絡が行くのかな。 C2　火事の場所へ早く行きたいから，近くの○消防署だと思う。 C3　○区全部の消防署につながるんじゃないかな。みんなで消した方が早く消えるよ	○火事の時１１９番に連絡すると，どこにつながるのかを問う。 ○資料１をロイロで提示する。始めは○小学校をアップで写し，もし火事になったらどこに連絡が行くかを問う。その後，画像を引き，消防局に連絡が行くことを確認する。

	ね。 T3　実は１１９番はここに繋がります。 C4　え？〇消防署じゃないんだ。 C5　どうして早く消したいはずなのに離れた場所につながるんだろう。 C6　しかも１５ｋｍも離れているよ。 T4　そんなみんなの疑問を課題にしましょう。	○火事の１１９番は近くの消防署ではなく，消防局の消防指令管制センターにいくことを確認し，ズレをうむ。
展開	なぜ１１９番は近くの消防署ではなく，中央区の消防局につながるのか。	
２．課題解決の見通しをもつ。 （９分）	T5　みんなの声でもあったけど，なんで消防局に連絡が行くのかこれまで習ったことを思い出してどんな予想ができるかな。 C6　〇消防署の勉強をしたときにパトロールをしてるって言ってたよ。その時に連絡が来たら困るんじゃない。 C7　消防局は中央消防署と場所が同じだから，より多くの消防力があるからじゃないかな。 C8　〇消防署に連絡しても消防車が整備していたら出動できないよ。 C9　消防署以外にもたくさん連絡しないといけないよね。何か連絡してくれるんじゃないかな。	○どうして消防局に連絡が行くのか予想する。 その際に〇消防署に直接連絡が行かない理由についても考えを向けさせる。
３．火事が起きたとき，消防局は何をしているのかを資料２から読み取る。 （１５分）	T6　みんながどんなことを調べたら，１１９番が消防局につながるよさが分かるかな。 C10 まずは消防局について知りたいな。何をしているところなのか分かる資料がほしい。 C11 消防局が何をしているのかが分かれば，〇消防署とも比べられるよね。 C12 どうして消防局に行くのか働いている人の様子を見てみたい。 T7　では，消防局がどんなことをしているのかの資料があるので，これを見て消防局に連絡が行くよさを班で協力して考えてみてください。 C13 消防指令管制センターからいろんなところに連絡がされているね。（協力） C14 センターが連絡してくれるから，間違いもないし，消火に専念できるね。（確実）（早い） C15 GPS があると近くの消防車が分かって連絡できるんだ。（早い） C16 警察に連絡が行くと交通整理とかをしてくれるんだよね。（協力） C17 ガスや電気を止めるのは，火事が広がらないためだったな。（協力） C18 授業の最初にやったイラストは全部消防指令管制センターが連絡してくれていたんだね。	○どんな資料があったら課題が解決できるのかを考える。 ○資料２を各班代表一名のロイロノートに送る。そのロイロノートに班員が気づいたことを付箋に書いて記入していく。 ○黒板に大きめの資料２を用意しておき，子どもたちが見つけた「よさ」がわかるように書き足していく。
４．資料３を視聴して，自分た	T8　みんな，この図からたくさん読み取りまし	○資料３

ちの読み取ったことを確かめる。 （８分） 終末 ４．まとめ （３分）	たね。実際の通報でどうなっているか確認してみたくない？ C19 確認したい。 C20 消防署に直接連絡しないでって言ってたね。やっぱりパトロールとかでいない時があるんだ。 C21 通報されたとき，話しながら消防署に連絡がいっていたね。 C22 思っていたよりも早かったな。 T9 今日の課題に戻って，なんで１１９番は消防局につながるのかな C23 消防指令管制センターがあるから。 C24 そこでいろんなところに間違いなく連絡してくれる。 C25 GPS が使えるから近くの消防車に連絡するのが早い。 C26 早く連絡が行くからみんなで協力して火を消せる。 消防局には消防指令管制センターがあり，近くの消防車に早く連絡したり，警察などに間違いなく連絡したりして，みんなで協力して早く消火できるから。	新潟シティチャンネル Call１１９で実際に通報があったときの流れを見せる。（編集済み）
５．振り返り （４分）	T10 じゃあ，今日の振り返りです。みんなは総合指令管制センターに連絡が行くことについてどう考えましたか。 C27 初めは遠回りをしていて，よくないんじゃないかと思ったけど，実は早く間違いなく連絡していて，みんなが協力して消火することに繋がっていた。	■ノートへの記述と振り返りで評価する。

資料１

→私たちの政令市新潟 P85 改編資料

資料２

→私たちの政令市新潟 P82～83 改編資料

板書計画

10／17　火事から町を守る

火事が起きたら→119番
↓
どこにつながる？
〇小で火事･･･~~〇消防署~~
実は

資料１

なんで！？何が？

火事の場所から遠くなっている

早く消したいのに

なぜ１１９番は近くの消防署ではなく，中央区の消防局につながるのか。

どんな資料があったらいいだろう
〇消防局について知りたい
〇通報の流れを見てみたい

予想
〇〇消防署はパトロールしている時間がある
〇いろんなところに連絡していると消火できない
〇消防車が整備中だと困る
〇消防局は多くの消防力がある。

資料２

よさ　よさ　よさ

≪消防指令管制センターのよさ≫

早い　協力　間違いなく

消防局には消防指令管制センターがあり，近くの消防車に早く連絡したり，警察などに間違いなく連絡したりして，みんなで協力して早く消火できるから。

（４）本時の評価

〇ノートに記述させ，提出させる。

【B 評価】

１１９番通報をすると，消防指令管制センターにつながることが分かった。

【A 評価】様々な機関へ連絡されることに加え，素早く消火するためその機関がそれぞれ協力していく事が分かる記述がある。

はじめは火事の時は近くの消防署に連絡が行くと思っていたけど，今日の授業で，消防指令管制センターに連絡が行くことが分かった。そうすることで，１つ１つに連絡をするよりも間違いなく，早く，みんなで協力して消火することが出来る。